

常照

第782号

「仏様の教えで

楽しく生きよう」

釈尊は、「縁起^{えんぎ}」の教えをお示し下さいました（世間では「縁起が良い・悪い」という人がありますが、本来の意味とはかけ離れた使い方です）釈尊がお示し下さった「縁起」とは、

①すべてのものは、他との関わりの中に存在し、つながり合っている。

②すべてのことがらは、因・縁・果

によって生じ、滅していくのです。

という「道理」をあきらかに知ることの大切さをお示し下さっているのです。

「縁」とは、「つながりようと思つてもつながらないことが多いことの中にあつて、つながりようと思わなくてもつながっていたこと」を、まさに「縁あればこそ」と慶ばせていただくあなたかい世界を味わう大切な言葉でもあります。

考えてみると、私たちは多くのご縁の中に生かされています。今ここに出会っている身近な家族をはじめ、隣人・知人・仕事上の関係など、さまざまな人とのお互いのつながりも、深いご縁です。

世間には

「自分は誰の世話にもなっていない」

「自分は誰にも迷惑をかけてない」

などとおっしゃる方があります。

その方には、「どうぞ無人島で一人生活をなさってみたらいかがでしょうか」と申し上げたいことです。ここにいる私の存在も、父母を縁として恵まれ、これまで多くのご縁によって育てられてきた「いのち」です。

裸にて生まれてきたに何不足（一茶）の句もありますが、何一つ持ち合わせいていなかったこの私が、今までどれだけ多くのことに恵まれ、支えられてきたことでしょうか。そして、どれだけ多くの「いのち」をいただいで、ここに生きているのでしょうか。

百グラムのお肉しか食べていないと言いますが、牛一頭を殺しているのです。

一切れのお刺身も魚一匹のいのちです。よく考えてみますと他のいのちをいただき、その犠牲の中で生かされているのですね。このように、私がこの目（肉眼）で見ている世界は、自分中心で自分の都合でしか見ていない世界ではないでしょうか。

小学四年生の詩があります。

運 動 場

朝、朝礼のとき石を拾わされた

みんな 広いなあといって拾っていた

休み時間にボール遊びをした

みんな 狭いなあといって遊んでいた

運動場が広くなったり狭くなったりしているのです。

また、お天気でさえも「いい雨だ」「いやな雨だ」と言つてグチをこぼしていただきますし、人の評価も、自分にとつて都合のいい人は「いい人」、そうでない人は「いやな人」となります。

それも、自分の都合で見ていることなのです。

釈尊は、「正しく、あるがままにものごとを観る「智慧の眼」をもつて、生きよ」と教えてくださっているのです。釈尊がお説きになられた教え（仏法）に出遭い、阿弥陀様の智慧（仏智）に照らされてお慈悲の中に生きることがそのままが人間の世界が明らかに知らされる「縁」（仏縁）でもあります。

この世で良いことをした人は、死後楽しみ一杯の極楽に生まれ、反対に悪いことをした人は苦しみだけの地獄に堕ちる、と教えるのが仏教だと思ひ込んでいる人は多いと思います。

確かに極楽・地獄は仏教の説くところですが、いいことをしたら極楽、悪いことをしたら地獄という考え方は「勸善懲悪」を教える儒教的な考えで、仏教ではありません。

仏教では確かに死後にも地獄・餓鬼を説きますが、今すでに我が身は、地獄・餓鬼・畜生・人間・天人の五悪趣にある事を明らかにして下さいました。そして、そのような「いのち」のあり方を「生死（まよい）」といい、そこを出て離れる道を教えるのが仏教なのです。

私たちは、「どんなことがあってもあなたを捨てることはない」と我が「いのち」を抱きかかえて下さっている阿弥陀様を見失い、「私が、俺が、我が」と小さな「我」に執らわれて生きています。

私たちの「我」の中身は、煩惱です。煩惱を断ち切ることは不可能ですね。

では苦しまずに楽しく生きるにはどうすれば良いか？それは全てを願わず受け入れる事がとても大切です。「悲しいことも、苦しいことも、楽しいことも、嬉しいことも」みんな全部私の宝物と大切に受け止めて人生を歩んで行きませんか？



三月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 三月七日(木)～十一日(月)

兵庫教区 高砂組 善行寺

講師 網 干 善一郎 師

○後期 三月十三日(水)～十六日(土)

北海道教区 十勝組 誓願寺

講師 頓 宮 彰 玄師

○春季彼岸会布教 三月十九日(火)～二十一日(木)

北海道教区 十勝組 玄誓寺

講師 上 本 周 司 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

○浄土真宗のみ教えについて布教使のご法話を頂きます。

どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいますよう、お待ちしております。

◎三月二十一日(木)は春季彼岸会の御中日にあたりますので、月忌参詣はお休みさせて頂きますので、どうぞお寺にお参りください。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (011) 474-0017
FAX (011) 474-0017
テレホン法話 (011) 474-0017